

平成13年度 試験研究成果

区分	指導	題名	病勢進展からみたきゅうり推奨品種「夏ばやし」のべと病・うどんこ病耐病性			
〔要約〕「夏ばやし」において、べと病急増期の病勢進展は「南極1号」などの感受性品種に比較してやや緩慢であるが、まん延後の発病推移に違いはみられない。うどんこ病に対しては初発が遅く、急増期にも病勢進展は緩慢である。このことから、うどんこ病に耐病性を有するが、べと病に対しては実用的な耐病性を有していない。						
キーワード	夏ばやし	べと病	うどんこ病	病勢進展	病害虫部 病理昆虫研究室	

1. 背景とねらい

きゅうり品種「夏ばやし」はうどんこ病に強い多収品種として、平成13年度から本県推奨品種に位置づけられている。きゅうり品種で耐病性有無を標記した事例は「夏すずみ」(非推奨)、「つや太郎」(推奨から削除)があるが、いずれも本県における耐病性評価は通常防除を行った中での発病差異に基づいて行われており、耐病性の品種間差を本質的に反映したものではない。また、「夏ばやし」はうどんこ病だけでなく、べと病、褐斑病に対しても耐病性を有するとされているが、本県における各病害の病勢進展からみた耐病性の実用性については評価できていない。ここではべと病、うどんこ病に対する耐病性について実用性を検討した。

2. 技術の内容

(1)「夏ばやし」におけるべと病耐病性

べと病に対して実用的な耐病性はほとんど有していない(図1)。

なお、夏ばやしにおいてべと病の発病は次のように進展する：

べと病の初発は感受性品種(南極1号、パイロット2号)に比較して遅く、7月第3～4半旬の急増期頃にやや遅れて発病する。7月第5半旬以降、発病葉率は感受性品種と同レベルで高いが、発病度はわずかに低く推移する。夏すずみと傾向が一致する。

(2)「夏ばやし」におけるうどんこ病耐病性

うどんこ病に対する耐病性は実用的なレベルである(図2)。

なお、夏ばやしにおいてうどんこ病の発病は次のように進展する：

うどんこ病の初発は感受性品種(南極1号、パイロット2号)より遅れ、急増期に当たる7月第6～8月第1半旬にかけて発生し、やや発病が増加する(図2)。しかし、感受性品種に比べれば明らかに病勢進展は緩い。なお、夏すずみに比較して耐病性は強いが、樹勢の衰える8月後半は夏すずみと同程度まで発病は増加する。しかし、この時点でも感受性品種に比べれば発病度は明らかに低い。

3. 指導上の留意事項

(1)褐斑病に対する耐病性については、本病原菌の感染生態の考慮および病害虫防除所の巡回調査(零石町御明神他)の結果から、感染後は南極1号等と同様に進展するため、耐病性があるとは考えにくい。

(2)夏ばやしのうどんこ病耐病性は防除回数の削減等防除圧の低減に活用できる。

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項にかかる試験研究課題

(734)きゅうりにおける総合的病害防除技術の確立

6. 参考文献・資料

(1)平成7年度指導上の参考事項「きゅうりのうどんこ病防除体系」(園試環境部)

(2)平成12年度研究成果(普及)「品種 きゅうり 耐病性・多収性の『夏ばやし』」。

7. 試験成績の概要

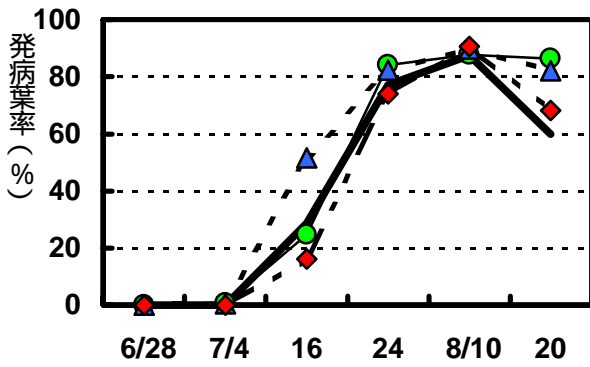
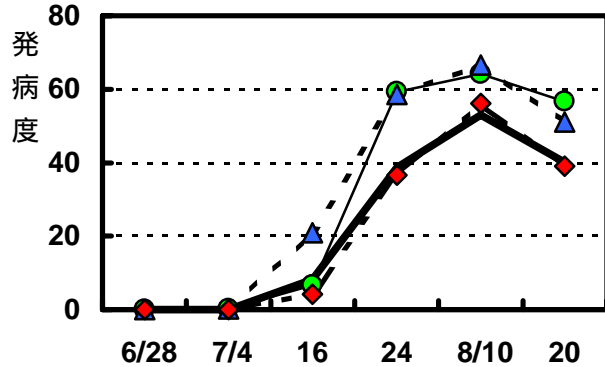


図1 きゅうり品種の違いとべと病の発病推移 (べと病無防除試験)



—●— 南極1号    -▲- ハイロケット2号  
—■— 夏ばやし    -◇- 夏すずみ

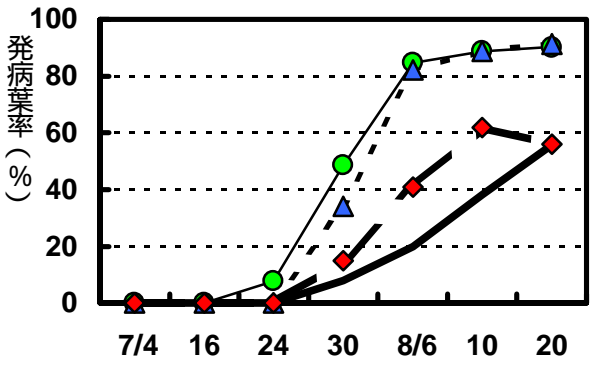
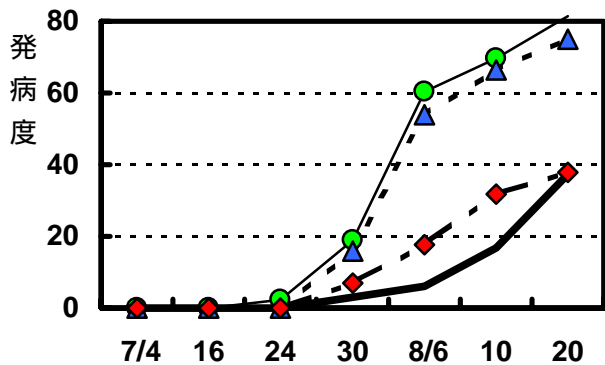


図2 きゅうり品種の違いとうどんこ病の発病推移 (うどんこ病無防除試験)



—●— 南極1号    -▲- ハイロケット2号  
—■— 夏ばやし    -◇- 夏すずみ

耕種条件： 自根栽培，定植6月1日。

防除概要： べと病無防除試験： 7/17まで無防除 7/18 トップM 7/25 ェスタク 8/3 カグリン  
8/9 ルーメイ 8/17 ェスタク 8/21 カグリン

うどんこ病無防除試験： 6/21 ジマン 6/28 ビス 7/5 サド C 7/12 ジマン 7/18 フェスティバル  
7/25 ゲッター 8/6 フェスティバル 以降無防除